

「鉱工業指数」その3

木村 俊文

生産活動の先行きを占う予測指数題

引き続き経済産業省の「鉱工業指数」について解説する。今回は生産活動の先行きを判断する上で利用されている「製造工業生産予測指数」(以下、予測指数)について見てみたい。

予測指数とは、鉱工業生産指数の対象品目(21品目)の中から主要品目(181品目)を選び、企業から聴取した前月の生産実績と先行き2カ月分の生産見込みを集計して指数化したもの(2000年平均を100として表示)であり、生産指数とは別系列の指標である。

予測指数には、対象品目数が生産指数のほぼ3分の1にとどまるためカバレッジが劣る、聴取する企業も主要大企業を中心に絞

り込まれるためバイアスがかかるなど、生産指数と比較して異なる特徴があることに注意する必要がある。

たとえば、生産指数と予測指数について、業種別のウェイトを比較すると、予測指数ではウェイトの小さい業種が「その他工業」に括られるなど、業種数とウェイトが異なっている(表1)。

予測指数の3系列

予測指数には、発表月を基準とした「前月実績」、 「当月見込み」、 「翌月見込み」の3系列があり、生産指数(速報)と同時期の毎月27日頃に一緒に発表される。

予測指数の3系列は、いずれも2001年12

月をボトムに上昇基調が継続している。04年5月調査では、前月実績の107.4に対し、当月見込みが111.2、また翌月見込みが109.5との見通しとなっている(図2)。

また予測指数は、鉄鋼業、非鉄金属工業など製造工業の内訳11業種別に発表されるため、業種別の分析を行うことが可能となる。ただし、前述のとおり

表1 生産指数と予測指数とのウェイト差

業種分類(2000年基準)	生産指数	予測指数	生産指数との差
製造工業	10,000	10,000	0
鉄鋼業	441	981	539
非鉄金属工業	198	222	24
金属製品工業	569	575	6
一般機械工業	1,273	1,117	155
電気機械工業	567	503	64
情報通信機械工業	484	825	341
電子部品・デバイス工業	1,143	1,468	325
輸送機械工業	1,231	1,455	224
精密機械工業	83	-	-
窯業・土石製品工業	433	-	-
化学工業	1,176	987	188
石油・石炭製品工業	85	-	-
プラスチック製品工業	440	-	-
パルプ・紙・紙加工品工業	317	539	222
繊維工業	337	-	-
食料品・たばこ工業	783	-	-
その他工業	441	1,329	888

経済産業省「鉱工業指数」
(注)生産指数のウェイトは、製造工業を10000として表示。

り全品目を対象としていないため、業種別に見る場合には留意する必要がある。

拡大局面の初期では修正率が上方修正

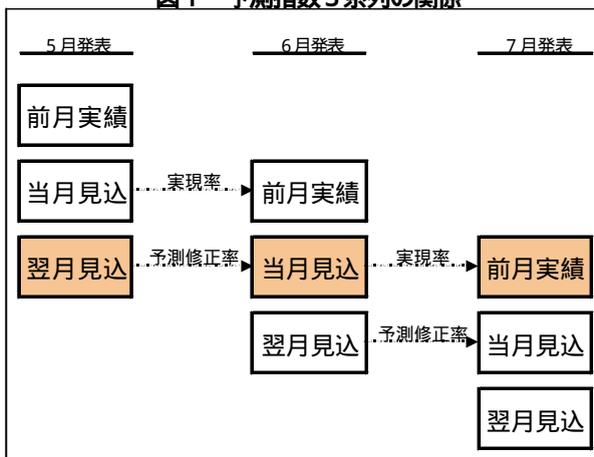
経済産業省では予測指数の3系列のほか、同指数をもとに「実現率」および「予測修正率」も公表している。

実現率とは、前回に予測した当月の数値が1カ月経過して実績値となった場合に「どの程度実現されたのか」を見るものである。

一方、予測修正率とは、前回予測した翌月の数値が1カ月経過して今回の予測数値となった時に「どれだけ修正されたのか」を見るものである。いずれもゼロよりも大きければ、上方修正されたことを意味する(図1)。

図2を見ながら実現率および予測修正率の特徴を整理してみると、実現率はマイナスとなることが多く、前月に予測した当月見込みよ

図1 予測指数3系列の関係



筆者作成

りも実績値は下回ることが多い。予測修正率は生産が拡大局面の初期、すなわち「意図せざる在庫減」の局面において上方修正される傾向がある。生産縮小局面においては、実現率・予測修正率ともに下方修正される傾向がある。

生産動向の先行き判断には、予測指数の水準や増減だけでなく、実現率および予測修正率にも注意することが肝要であろう。

